



— 展示解説員が博物館の見どころを紹介します —

「タシロラン」を探してみよう！



タシロラン

自然史展示室の展示物には神宮の森で見ることのできるものもあります。その中で今回はタシロランを紹介します。タシロランは葉緑素を持たない白色の菌従属栄養植物きんじゅうぞくえいようしょくぶつです。高さは50cm程になり、5～7月頃に見られます。

菌従属栄養植物は、菌類に栄養を依存して生活している植物です。通常、植物は、光合成によって自ら栄養分を作ることができます。また、植物の約8割は根にすみついた菌類と共生しています。植物が光合成で得た有機物の一部を菌類に与えるかわりに、菌類から成長に必要な窒素やリンを得る、持ちつ持たれつ^①の関係を築いています。しかし、中には光合成をやめて菌類に完全に依存する植物もあり、タシロランはこれにあたります。この不思議な植物を探して森を散歩してみてもいいかもしれません。



菌類のコーナー

はぎとり土層にみる火山灰！

2階歴史展示室入口を進むと、巨大な土層が現れます。これは川南町の後牟田遺跡うしろむたいせきで実際の土層の断面を薄くはぎとり、布に転写したものです。南九州には、降った年代がはっきりしている火山灰層が多くあり、石器や土器の年代を決定する鍵層かぎそう（目安）となっています。特に有効なものが、旧石器時代の目安となる、約28,000年前の始良丹沢火山灰層あいらたんざわかさんばいそう（AT）です。旧石器は、縄文時代の土器などのように形が大きく変化しないため、火山灰層の上下のどこで出土するかで年代がわかります。ATは現在の錦江湾北部にあたる始良カルデラの噴火によるもので、日本列島のほぼ全域と朝鮮半島にまで広く降りました。この層の上下で、ナイフ形石器・剥片尖頭器はくへんなどが出土しています。



はぎとり土層

クイズに挑戦！

ゾウの化石が西都市とえびの市の2カ所で発見されています。約2万年前の最後の氷期のピーク頃に絶滅したゾウです。このゾウの名前は何でしょう？ ①マンモス ②アジアゾウ ③ナウマンゾウ

